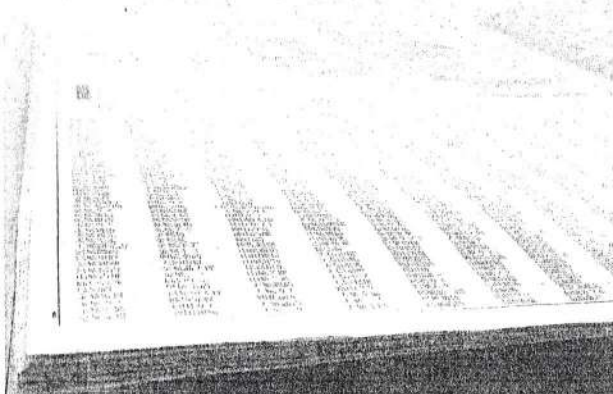


文化

別刷りで第1集、第2集を合わせて計48ページの戦没者名簿を掲載した1995年1月16日付の琉球新報



沈黙に向き合う

沖縄戦聞き取り47年

石原 昌家

〈64〉

前回、刻銘予定者の国名主義人民共和国と大韓民国について朝鮮という表記をめぐって、半島の北と南の人たちの意見がまとまらなかったと記したところ、読者から質問が寄せられた。そこで、朝鮮ではなく朝鮮半島と表記すべきと意見が分かれたので、国連加盟の確の国名表記がずっと心のわだかまりになっている

であること、読者の質問によって改めて認識することになった。戦没者名を石板へ刻銘するにあたり、最大の課題は、戦没者名簿は県出身者チェックの方法であった。その前に全戦没者調査へ至る経過について、私の知事宛書で追記しておきたい。

平和の礎⑥

名簿確認 壮大な作業

誤記防止へ全員新聞掲載

知事への要望書 連載第64回を執筆する段になって、平和の礎に関し、私から知事等への要望書一式のコピーをワイフが分類し保管してあるのをみつけた。その存在をすっかり忘れていた。平和の礎建設の総責任者の知事公室長に直接全戸(全数)調査を要請する前に、私は1993年2月1日付で「沖縄国際平和創造の杜(仮称)構想調査委員会委員長」の肩書で、手持ちの戦没者氏名に加え

ていた。その新聞記事を読んだ、私は非常に焦った。とは鮮明に記憶している。そこで、知事に沖縄県全域の戦没者名の調査の必要性を個別具体的に挙げていき、「県民がいまままでの少なとも住民に関する戦没者の公式記録の不備を熟知しており、新たな調査なしで戦没者を刻銘することに大きな異議を唱えることが予想されます。以上のことから鑑みて、これまでの願ひ申し上げます」と結んでいた。

この要望書は沖縄戦研究でも、早急に各市町村単位で、少なくとも戦没者名の確定作業を計画して頂きたいと「戦没者名簿」に限定した調査であれば、各集落の老人会・婦人会などの協力を得て、短期間に全県下の調査が可能だと思えます。沖縄を世界平和の発信地にしようという県知事の政策は、県民をはじめとする多くのひとびとの共感を呼んでおります。その政策遂行のひとつとして、こ

いま、手元の沖縄県と名護市の資料でその概略をみるだけでも関係部局やボランティアのみなさんが注いだ、大きな努力を想像し、改めて頭が下がる。まず、戦傷病者戦没者遺族等援護法の対象者名簿を基礎資料にして、その経緯は以下の通りだった。①市町村職員対象の全戦没者調査の説明会(93年10月26日)、②県平和推進課からの援護法対象者名簿の整理点検(93年10月27日から11

月25日)、③調査員への全戦没者調査票の記入方法についての説明会(93年11月26日)、④全戦没者調査作業(93年11月26日、94年3月18日)、⑤各集落市町村のマイク放送で戦没者名簿の縦覧の呼びかけ、⑥第1回各集落市町村、各支所、民生課、県庁での戦没者名簿縦覧(94年7月1日、7月20日)、⑦第2回各集落市町村、各支所、民生課、県庁での戦没者名簿縦覧(94年11月28日、12月5日)、⑧第3回各集落市町村、各支所、民生課、県庁での戦没者名簿縦覧(95年1月16日、1月22日)。(以

上は、戦後50周年記念名護市戦没者名簿「未来への誓い」96年3月、名護市史編さん室に依った。この経緯のなかで⑧の「地元新聞紙上での戦没者名簿縦覧」こそが、私にとつては最後の大事な仕事だった。県の資料によると、94年3月で全数調査の最終総括が行われ、95年6月23日の除幕に向け、同年2月までに石板への刻銘作業が行われる予定だった。

家族の確認

家族の確認(次回30日掲載)

ていた。その新聞記事を読んだ、私は非常に焦った。とは鮮明に記憶している。そこで、知事に沖縄県全域の戦没者名の調査の必要性を個別具体的に挙げていき、「県民がいまままでの少なとも住民に関する戦没者の公式記録の不備を熟知しており、新たな調査なしで戦没者を刻銘することに大きな異議を唱えることが予想されます。以上のことから鑑みて、これまでの願ひ申し上げます」と結んでいた。

この要望書は沖縄戦研究でも、早急に各市町村単位で、少なくとも戦没者名の確定作業を計画して頂きたいと「戦没者名簿」に限定した調査であれば、各集落の老人会・婦人会などの協力を得て、短期間に全県下の調査が可能だと思えます。沖縄を世界平和の発信地にしようという県知事の政策は、県民をはじめとする多くのひとびとの共感を呼んでおります。その政策遂行のひとつとして、こ

いま、手元の沖縄県と名護市の資料でその概略をみるだけでも関係部局やボランティアのみなさんが注いだ、大きな努力を想像し、改めて頭が下がる。まず、戦傷病者戦没者遺族等援護法の対象者名簿を基礎資料にして、その経緯は以下の通りだった。①市町村職員対象の全戦没者調査の説明会(93年10月26日)、②県平和推進課からの援護法対象者名簿の整理点検(93年10月27日から11

月25日)、③調査員への全戦没者調査票の記入方法についての説明会(93年11月26日)、④全戦没者調査作業(93年11月26日、94年3月18日)、⑤各集落市町村のマイク放送で戦没者名簿の縦覧の呼びかけ、⑥第1回各集落市町村、各支所、民生課、県庁での戦没者名簿縦覧(94年7月1日、7月20日)、⑦第2回各集落市町村、各支所、民生課、県庁での戦没者名簿縦覧(94年11月28日、12月5日)、⑧第3回各集落市町村、各支所、民生課、県庁での戦没者名簿縦覧(95年1月16日、1月22日)。(以

上は、戦後50周年記念名護市戦没者名簿「未来への誓い」96年3月、名護市史編さん室に依った。この経緯のなかで⑧の「地元新聞紙上での戦没者名簿縦覧」こそが、私にとつては最後の大事な仕事だった。県の資料によると、94年3月で全数調査の最終総括が行われ、95年6月23日の除幕に向け、同年2月までに石板への刻銘作業が行われる予定だった。

家族の確認(次回30日掲載)